

平成28年度 事業計画

平成28年度は、第3期指定管理期間（平成28年度～平成32年度）の初年度となります。第3期の指定管理者の応募の際に提出した5年間の事業計画書に基づき、年次毎の事業計画を作成し、実施してまいります。また、第3期は、新たなパートナーとして株式会社JTBコミュニケーションデザインと共同事業体を構成します。当財団は30年に亘る運営ノウハウと実績と信頼をもとに、JTBコミュニケーションデザインの様々な施設の運営により培ってきたノウハウを活用したコンサルティング支援を受け、施設の新たな魅力向上や集客向上に向けた施策を市と協議しながら積極的に推進します。

帆船日本丸は、日本国内に現存する希少な「リベット構造」を持つ帆船で、国内開発された船用大型ディーゼルエンジンを搭載するなど貴重な海事遺産です。市と協力して国レベルの文化財的価値を保全しつつ、総帆展帆、海洋教室など活用の取り組みを進めます。

横浜みなと博物館では、常設展示の魅力アップを図るとともに、夏から秋にかけて「柳原良平 海と船と港のギャラリー」（仮称）を、2月には「海難と救助 - 信仰からSOS -」（仮称）の企画展を開催します。

日本丸メモリアルパークでは、アリーナでの音楽イベントをはじめ、横浜市や企業、団体、NPO等と連携したイベント等を開催します。

みなとみらい地区という賑わいエリアの特性を踏まえ、多様な主体と連携した事業に取り組み、帆船日本丸と横浜みなと博物館、日本丸メモリアルパークの一体的な運営管理を行い、集客増と収入増を図ります。

1 事業運営の方針

(1) 年次計画の目標

目標は、横浜市との「平成28年度協約」の目標と同じく、帆船日本丸及び横浜みなと博物館の有料入場数8万人、日本丸メモリアルパーク利用者数134万人、来校数595校とします。また、お客様満足度97%以上を目指します。

(2) 利用者の拡大と一層のサービスの向上

お客様に気持ち良くご利用いただくために、おもてなしの心で常に改善を行い、サービスの向上に取り組みます。利用者ニーズを的確に把握した取り組みを展開するとともに、引き続き来場者の増加が期待される、学生団体と訪日外国人に向けたキャンペーンやサービス向上策を講じます。

施設運営の大きな特徴である、登録人数計2,600人にのぼるボランティアとの協力体制を引き続き充実させます。

また、JTBグループのノウハウを活用し、施設の魅力向上に向けたデータ収集や分析を行い、新たなプロモーション施策とサービスを提供します。

新たに予定されている水陸両用バスの実証実験について、事業者や市と連携・協力し新たな魅力づくり、サービス向上に取り組みます。

(3) 安全・安心して利用できる施設管理

日頃からパーク内を巡回し、子どもや高齢者にも安心して利用していただけるよう施設管理を行います。また、地震や津波、風水害等の発生時には、お客様の安全を第一に避難等、必要な措置を講じ迅速に対応します。

(4) 料金体系の見直し

利用実績やイベント実施、繁忙日等を考慮しながら、柔軟な料金体系を設定します。お客様のニーズに応え、帆船日本丸・横浜みなと博物館のどちらか1つの施設を見学できる単館券を発行し、また高校生料金を子ども料金帯に変更します。

小・中・高校生料金が従来無料であった毎週土曜日については、100円の特別料金を設定します。この料金収入は、子どもたちの社会貢献活動の一つとして周知し、帆船日本丸進水100年に向けた保存事業に使用します。

2 帆船日本丸事業

帆船日本丸は船齢86歳となり、船体の強度を保つための構造部材である外板、フレームのほか、帆走艀装、木甲板など各所の老朽化が進み、早急の処置が必要となってきています。年次検査に合わせて的確に整備を実施するとともに、大規模修繕については横浜市と協力しながら準備を進めていきます。

船体整備を進めて安全確保を行いながら、帆船日本丸を活用した市民参加・体験型の事業展開を図るとともに市民の皆様にも日本丸の事業活動をより理解していただけるよう努めます。

(1) 保存事業

帆船日本丸を良好な状態で保存するために次の整備を行います。

○日常保守点検

- ① 観覧者通路・公開区域の安全点検整備
- ② 船内及び甲板清掃、船内真鍮磨き
- ③ マスト、ヤードその他帆装艀装の点検整備 等

○年次船体整備

- ① 中間検査受検工事、木甲板及び木艀装品一部新替
- ② 静索の点検整備 等

○災害防止

- ① 観覧者、総帆展帆協力者及び甲板整備協力者の安全の確保
- ② 船内防災センターにおいて火災、浸水及び不法侵入者等に備えて24時間体制で集中監視を実施

(2) 公開事業

船内を年間290日程度一般公開します。今年度も同様に、お客様のご意見を反映させることによりサービスの向上に努めます。お客様に大変ご好評頂いている、現役時代の日本丸に乗船経験のあるガイドボランティアによる船内ガイドを毎日実施します。また、展帆ボランティアの協力による総帆展帆や、満船飾を行うことで帆船日本丸の美しい姿を来場者に実感していただきます。さらに夏は、小学生向けの自由研究教室を行います。また、新たな事業として、船長によるスペシャル講座の開催、通常立ち入ることができない未公開ゾーンの船内探検ツアーや冬期修繕工事期間中の見学会の開催等に取り組み、帆船日本丸の魅力を多くの皆様に伝え、観覧者の誘致に努めます。

(3) 青少年錬成事業

帆船日本丸は、青少年が船上訓練などを行うことにより海・船・港に関する知識を学ぶ教育施設です。また、団体生活を行うことにより強い心と体を培う施設でもあります。帆船日本丸及び訓練センターを活用して、青少年錬成のための海洋教室を開催し、海事思想の普及を図ります。

3 横浜みなと博物館事業

常設展示の魅力の発信を強化するとともに、横浜みなと博物館ならではの企画を実施し、既存の事業の一層の充実を図り、博物館の魅力の発信と新しいファンの獲得を目指します。

市民ボランティアとともに、展示や教育普及、アウトリーチ活動を通して、多くの人が海や港、船に親しみ、興味をもつことができるように、体験的な教育プログラムを用意します。

そして、こどもから大人、ファミリーまでが楽しめる博物館づくりに努め、リピーターと新しい入館者の増加を図ります。

(1) 常設展示事業

常設展示をより、楽しんでいただくために、市民の展示案内ボランティアによる展示の案内、説明を毎日実施し、入館者の満足度向上とリピーターの確保に努めます。また、新しい事業として、「館長トーク」や「学芸員のワンポイント展示解説」を実施して、展示内容の理解をより深めていただき、展示の魅力アップに努めます。また、調査研究による成果を展示して新しい情報を発信します。

(2) 特別展示事業

昨年8月に逝去された故柳原良平氏の作品による企画展を夏から秋にかけて開催します。2月には海難とその救助に焦点を当てた企画展を実施します。

展覧会名	会期
東日本大震災 第5回 石巻かほく復興写真展	平成28年6月25日 ～7月3日
企画展「柳原良平 海と船と港のギャラリー」	平成28年8月13日 ～11月6日
企画展「海難と救助 - 信仰からSOSへ - 」	平成29年2月18日 ～4月16日

(3) 教育普及事業

春は大人向けのミナト散歩、夏は小学生向けの自由研究教室や船の工作教室、秋は大人向けの海図教室などを行います。週末土日の入館者向けには、リピーター増加のための事業を教育活動ボランティアの協力により行います。土曜日にはこども向けクイズラリーと船の折り紙教室を、日曜日と国民の休日にはファミリー向け事業として好評なペーパークラフト教室と船の折り紙教室を行います。大人向けのクイズラリーも適宜実施します。また、1年間連続して活動する小学生向け体験型事業である「横浜みなとキッズクラブ」を実施します。

4 みなとの賑わい創出事業

(1) 水辺の事業

①シーカヤック体験教室

日本丸メモリアルパークの内水域及び自動車道側水域において、NPO法人横浜シーフレンズと連携しシーカヤック教室を開催します。また、土日や祝日に開催する一般教室や子ども教室、平日教室に加え、新たにリピーター向け中級コースを開設します。

横浜市立大学、横浜国立大学、神奈川大学、放送大学との連携教室等を開催します。

② カヌーポロ教室

新たな取り組みとして、横浜カヌー協会・NPO法人横浜カヌー倶楽部と連携し、子ども向けカヌーポロ教室を開催します。青少年育成と競技の普及を目指します。

(2) パーク利用事業（イベント）

市民交流・リサイクル事業としてのフリーマーケット、吹奏楽演奏会を初めとする音楽イベントなどを定期的で開催します。また、夏の子供向けイベントや横浜音まつり2016、海洋都市横浜うみ協議会のイベントといった横浜市のプロモーションイベントとの連携に取り組みます。また、みなとみらい21サクラフェスタ2016、ヨコハマ大道芸2016などMM21地区のイベントに積極的に参加するなどし、パークの有効活用を進め、集客増と収入増を図ります。

5 緑地管理及び研修施設事業

(1) 緑地の維持管理・活用

○安全管理・美化

劣化・老朽化している箇所を速やかに補修改善するなど安全・安心な施設管理を行います。また、昨年10月から活動開始したグリーンボランティアの協力を得て、樹木や草花、芝生等を良好に維持管理するとともに、生き物にやさしいバタフライガーデンやバッタの原っぱ、アマモの育成等に引き続き取り組みます。また美化清掃を実施し、来園者が安全快適に過ごせる空間を提供します。

○撮影

製作会社とのコミュニケーションを深めて、製作者のニーズに応じていくことで、多くのテレビ番組やCMの撮影などのリピーターを増やすなど、更なる利用促進を図ります。

(2) 研修施設（訓練センター）の管理運営

当施設は、駅からのアクセスも良く、利用者から好評を得ております。さらに団体・法人等幅広くご利用いただけるよう、WEB上での予約状況情報の開示を行うなど、利用者の利便性向上に努めます。また、新たに1日を4つの時間帯に分けて貸出を行い、より利用効率を高めて集客増・収入増に繋がります。

6 集客増に向けた重点取り組み

<主な取り組み>

- (1) 月次会議などを活用し、新たな共同事業体のパートナーである J T B コミュニケーションデザインが持つ施設運営ノウハウを活かしたプロモーション施策を策定して実施します。また J T B グループが持つネットワークやリソースを活かした取り組みを開始します。
- (2) J T B グループを初めとする主要旅行会社へのインセンティブ施策を継続実施します。
- (3) 学校に向けた各種取り組みを推進し、来館校数 5 9 5 校の達成を目指します。
 - ①埼玉県や栃木県の小学校の修学旅行や北海道・東北・新潟・中部に加え、北陸の中学校の修学旅行の誘致
 - ②日本修学旅行協会発行の学校向け『月刊教育旅行』への広告
 - ③神奈川県、東京都、埼玉県の小学校への営業訪問の実施
 - ④新たに、帆船日本丸船長や航海士による講話の実施
- (4) 入館料金の柔軟な対応
今年度より発行する単館券の販売動向を見つつ、春休みや夏休み等に家族やグループで気軽に、かつお手ごろな料金で来館していただけるような料金設定を検討します。大人の料金帯であった高校生の料金を小・中・高校生料金として改訂し、東京都や神奈川県を中心とした高校生の来館者を増やしていきます。
- (5) インバウンド（訪日外国人客）集客増に向けた取り組み
引き続き増加が見込まれる訪日外国人観光客獲得への取り組みとして、昨年度に導入した「多言語ガイドシステム」や「Facebook」などにより情報発信力を高め、集客に繋げていきます。また、総帆展帆予定表やシーカヤック等のイベントチラシの英語版作成、外国人キャンペーンの継続実施、春節や国慶節などアジアからの訪日外国人客の多い時期にあわせた取り組みなど、訪日外国人向け施策を拡充してまいります。
- (6) 連携イベントによる賑わいの創出
 - ①みなとみらい 2 1 さくらフェスタ 2 0 1 6 との連携（4月）
 - ②ジャズフェスティバル at NIPPON MARU の開催（ゴールデンウィーク予定）
 - ③横浜開港祭 2 0 1 6 との連携（5月・6月）
 - ④音祭り at YOKOHAMA から派生する「ヨコハマ スティールパン フェスタ 2 0 1 6」の開催（8月予定）
 - ⑤ピカチュウイベントの継続誘致（8月予定）

7 組織運営の質的向上に向けた取り組み

一人ひとりの職員がいきいきと活躍できるよう次の取り組みを行います。

(1) 風通しの良い職場づくり

管理職会議、職員ミーティングや日常業務での議論を通し、職場でよく話し合う風通しの良い職場運営を行います。

(2) 研修の実施

「コンプライアンス」や「個人情報保護」、「防災・緊急時対応」、「接客対応」、「スキル研修」等の研修を実施し、職員の意識や能力の向上を図ります。

(3) コンプライアンスの遵守

研修や朝礼等によりコンプライアンス意識の向上を図ります。また、市職員を含めたコンプライアンス委員会の開催等により、コンプライアンスの遵守を徹底します。